

自衛隊音楽祭り

柴田 幹雄 陸自75

11月30日、自衛隊音楽祭りが、いつもの武道館が改装中で、代々木体育館で開催された。観客は約8千人が収容できるとのことだったが文字通りの満席だった。

令和元年度の音楽祭りということでテーマは「変革の響き、進化への序幕」で、2時間がずいぶん短く感じるほど素晴らしかった。

今年のゲストバンドは、いつもの在日米陸軍軍楽隊と第3海兵機動展開部隊音楽隊のほか自衛隊音楽祭りには、ともに初参加のベトナム人民軍参謀部儀礼団軍楽隊及びドイツ連邦軍参謀軍楽隊である。

海外の軍楽隊のサウンドは、基本的には同じ楽器の編成なのにどうしてこんなに違うのだろうかいつも不思議に思う。音にお国ぶりが出る。米軍軍楽隊はやはりアメリカンサウンド、ジャズっぽい演奏で楽しませる。ベトナム軍楽隊の演奏は、まったく先人観なしに聞いた瞬間に、アツ中国の音だと思える。どこがどうとは専門家ではないから言えないけれど中国の舞台音楽を連想させるサウンドなのだ。ベトナムが歴史・文化的に中国の影響を受けてい

るからかと思う。軍服姿の女性ボーカルも声がよく伸びていてよかった。

ドイツ軍楽隊は行進曲を演奏するのだが重厚さを感じさせる音は聞いたとたん映画によく出るドイツ軍歌を連想してしまった。ドイツ軍楽隊も隊形を変えながらのドリル演奏をし、写真のように人文字でハートと「日本」の漢字を作り、拍手が沸き起こった。また退場の時に演奏を一瞬止めて「アリガトウ・ニッポン」と全員で声を出すと

いう大サービスぶりだった。



陸自中央音楽隊は「陸軍分列行進曲」を演奏したが、神宮外苑の学徒出陣を想うか、部隊での観閲式訓練を思い出すか、世代で分かれるかもしれない。いずれにせよこれは日本のサウンドだ。

圧巻はやはり自衛太鼓だろう。今年是最多の15個チーム250名が参加している。

最終章は全出演者総出のフィナーレで、さらに全員退場した後に、ピアノ伴奏で海自の歌姫中川真梨子3海曹がソロで歌う「瑠璃色の地球」で終わった。